TEI 鼎談 DAN
学問と職業のカンケイから、大学進学を考える本
あなたは、まだ何にだってなれる。

法政大学 社会学部

社会学部では、現代社会に起こっている様々な社会問題（社会的格差、貧困、環境破壊、家族や地域社会の崩壊、戦争など）の原因を究明し、社会全体の福利を向上させる方法を考え、提言することのできる人材の育成を目指します。





■大学生
三谷紬 さん



■先生
稲増龍夫 先生



■卒業生
河西秀幸 さん

CONTENTS

●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス

●プロフィール

法政大学における社会学部での学びの特長を教えてください。



■先生
全国の大学に社会学部はたくさんありますが、法政大学の社会学部は日本で一番古く、歴史がある学部です。高校生の皆さんの中には社会学って何だろう、社会科とどう違うのだろうかと疑問をもつ人もいると思いますが、総合社会科学、つまり社会のありとあらゆる領域の問題を取り上げるのが社会学部です。社会の成り立ちの話から法律や経済、教育、福祉、メディアなど様々な領域にわたる社会の問題について研究していきます。非常に広く問題を扱うことができるので、自分の関心が絞られていない人にとっては、入学後、テーマを選ぶことができるのが特長ではないでしょうか。

社会学部内の３学科の特長を教えてください。

■先生
社会政策科学科は行政や環境問題、企業問題、福祉、コミュニティなどの経済に近い実践的なテーマについて取り扱っており、卒業生にも公務員志望者が多いです。

社会学科は社会学部の真ん中にあり、広く社会全般について勉強をしながら、実学的なものに興味を持つ方もいれば、一方でメディア関係に興味を持つ方もいる、一番学びの幅が広い学科です。
メディア社会学科は、かつて社会学の中にありましたがとても人気がありました。メディアとは、いわゆるマスメディアから現在のネットメディアまでです。IT も含めて、メディアと社会の関わりを探っていきます。この学科からはマスメディア関連に就職する学生が多いです。特長的なのは「メディア社会学入門」という授業で映像制作の基礎を学ぶこと。この授業を通して、メディア社会学科に在籍している学生は撮影から編集まで映像制作ができるようになります。座学ではなく実践的に技術やメディアリテラシーを身に付けられることはメディア社会学科の強みだと感じています。

●大学生活について

法政大学に入学しようと思ったきっかけはなんですか？



■卒業生
大学はそれほど多くは受験していませんが、社会学部系を受けていました。なぜ法政大学かといえば、稲増先生のゼミが面白そうだったというのが理由です。高校時代からメディア系に興味を持っていたため、稲増ゼミに入れなかったら入学した意味はありませんでした。稲増ゼミは試験があるのですべての志望者が入れるわけではなく、当時はメディア社会学科がなかったこともあり一番難関でした。

■大学生
私は将来の夢から大学を考えていたので、マスコミ業界に行きたいのであればどのような大学に行けば良いかを模索していました。
私も河西さんと一緒でそれほど多くの大学は受けずに、法政大学を含め４大学しか受験しませんでした。
その中でも法政大学には通称「自主マス」と呼ばれている自主マスコミ講座があったので、志望度合いは最も高かったです。稲増先生の存在が大きかったですね。

■先生
偉い。模範解答ですね（笑）。

現在、どんなことを学んでいますか？

■大学生
稲増先生のゼミに２年次から所属し、映像制作に取り組んでいます。
ゼミは毎日が文化祭と言われるほど大変ですが、とても楽しいです。絶えず何かしら企画して、制作していて、文化祭の準備期間が１年中続いている感じです。形になった時に「やっと終わったな」と、何よりゼミのやりがいと達成感があると思います。

大学生活の中で打ち込んでいることはありますか？

■大学生
ゼミです。２年生の時はゼミ以外に何もできなくなるほどゼミの活動が忙しくなるので、大学生活＝ゼミという感じになってしまいます。
あとは法政大学で一番強い、サッカーサークルにマネージャーとして入っています。マネージャー

だけでは物足りなくなって、サッカーの勉強をして監督をやっています。そんなに簡単にできるものなのかと思うかもしれませんが、やらせて欲しいと言ったら実現しました(笑)。ベンチに座って采配することが多く、こういうプレイスタイルの人はこのポジションが良いなど指示しています。全国大会に何度か出場したことがありますが、あるフォワードの選手がなかなかゴールを決めることができずに困っていました。私はその選手の足の速さに着目して、フォワードからサイドバックに変更すると想像以上にチームにフィットして、活躍してくれるようになりました。それ以来、周囲からも監督として認められるようになりました。



メディア社会学科にはどのような学生が多いですか？

■先生

毎日が文化祭という言葉に象徴されるように、良い意味でのお祭り好きが多いです。椅子に座って何かを考えているよりは、とにかく身体を使って動くことが好きな体育会系です。高校時代の経歴を見ても、部活をやっていた学生は多いですね。体育会でなくても、生徒会やブラスバンドなど“皆で何かを作ってきた”経験がある学生が向いていると思います。結果的にそういう学生は就職後に社会人としても活躍しています。

メディア社会学科は、入学時は８割程度がマスコミ志望ですが、現実的に就職する学生は２～３割といったところで、１年くらいが経過すると志望者は半分以下に減ってしまいます。私のゼミは、そんな中でも志望を変えない、やる気のある学生が集まってきます。

先生は「自主マスコミ講座」を主催されていますね。

■先生

この講座は 1988 年から自主講座として運営しており、これまでに多くの学生をマスコミ業界に送り出してきました。入るためには試験があり、１年生～３年生までの春と秋に募集しています。1 番ベーシックなのは３年生の春からですが、最近では入る年次は様々です。全体で 300 ～ 400 名くらい在籍していて、学部を横断して同じゼミに集ったファミリーのようになっています。

講座の内容としては OB･OG たちが来て、実践的なワークショップを開催しています。アナウンサーであれば実際にリポートをしたり、帯番組を作ってみたり、新聞であれば記事を作ったり、マスメディア全体について学んでいます。

河西さんには、講義をしてもらったことがあります。

■卒業生

私の時は、自分の経歴や仕事の内容、仕事の進め方などを話しているうちに時間が過ぎてしまいました。

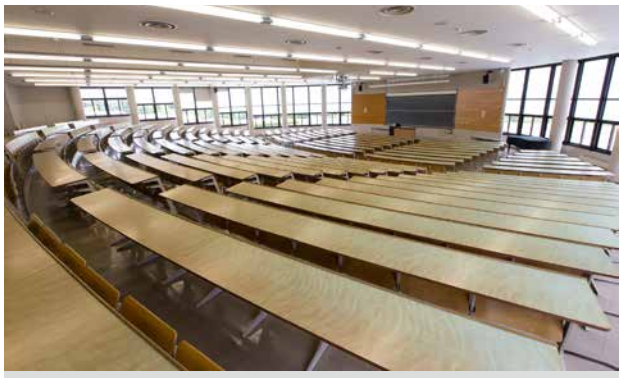
■先生

今はまた違った内容になっていて、学生が課題をこなすことがメインです。河西さんにまた講義をお願いできるのであれば、今度はドラマの企画を立てて、それを発表して講評するという流れでやりたいですね。すぐに使える内容ではないにしても、今の大学生が何を考えているのか、現場で働いている卒業生にとっても刺激になるはずです。それは広告や番組制作などのジャンルに関わらず、OB・OG からもよく言われています。すでに 30 年余り、こうした交流を続けています。

入学してからの大学の印象はいかがでしたか？

■卒業生

多摩キャンパスという土地柄もあるのでしょうが、自由な雰囲気がありました。



■先生

のんびりとした感じです。キャンパスが大きいので、CM や番組の撮影も行っていますね。

■卒業生

あとは素直な学生が多いと感じました。私は高校・大学とバスケットをやっていましたが、学科でもゼミでもノリが良く体育会系の学生が多かったので早くに打ちとけることができました。

■先生

ゼミでは泊まり込みで作品を制作するので、合宿のような雰囲気もあります。

■大学生

実際にはそれくらいしなければ課題提出に間に合わないです。

大学の印象としては気軽に学生生活を送ることができる雰囲気だなと感じていました。すでに就職活動を始めていますが、仲良くなったほかの大学の学生と話していると特にそう思います。例えば自分の持っている服の話題になった時にも、法政大学の友人と話しているとどこのブランドかというような内容ではなく、いかに安く買えたかというような話になります（笑）。

印象的な講座や授業はありますか？

■卒業生

稲増先生の選択必修授業で「メディア文化論」が印象に残っています。カタイ学問のイメージとは違った、メディアやアイドル論が授業で展開されることに驚きました。

あとは中国語です。第２外国語として大学に入ってから初めて触れましたが、中国語が好きになり今でもかなり覚えています。

実際に仕事の撮影で台湾に１ヵ月いたことがありますが、そこで話すととても喜ばれました。日本人が現地で一生懸命に中国語を話していると好感を持たれるようです。例えば「あなたはバレーボールが好きですか」といった質問を突然中国語で話かけると、大爆笑されます。こんなにリアクションがあるとは、自分でもまさかのコミュニケーション方法でした（笑）。

■大学生

大学１年生の時に受けた「マスコミ問題」という授業が印象的でした。例えば、政治的な話題について「こういう報道の仕方は良くない」とか、同じニュースを在京キー局で比べて「この局の報じ方が一番良い」など、ニュースの問題点について論じる講義で、マスコミ志望の自分にとってはとても役に立ちました。先生から、各テレビ局のカラーや報道姿勢を教えてもらえたことは大きかったです。

先生のゼミではどのような講義をされていますか？

■先生

主に映像制作の授業です。

三谷さんと河西さんは２人とも私のゼミでしたが、河西さんの代から「ノンリニア編集」というパソコン上で作業できる技術が導入されました。それまではテープで編集作業をしていて、編集機が

ゼミに１台しかなかったので限界がありましたが、彼がノンリニアで始めてからは 24 時間編集作業ができるようになり、ある意味学生にとっては課題が過酷になったかもしれません。
私のゼミでは企画から撮影、編集まですべてをやっていただきます。就職してからは、企画する人と演じる人、編集する人などは分業なので、すべてに携わり経験できることが稲増ゼミの魅力です。課題は夏、秋、春休みで分かれており、ジャンルは 12 分間のニュース番組を制作する「ニュース」、夏休みのほぼすべてを使って 20 分間のオリジナルドラマを制作する「ショートフィルム」、課題曲に合わせて映像をつけたプロモーションビデオを制作する「MTV」、バラエティー、ドラマ、CDTV の３班に分かれて１月後半から３ヵ月ほどの期間で制作する「ゼミプロモ」と決まっています。
■大学生
学生食堂でパソコンを開いているのは、たいてい稲増ゼミ生ですね。
撮影の際にはスタジオを借りることもありますし、セットなども自分たちでお金を出し合って手作りします。本当に本格的な体験ができます。
私はゼミで、その年のヒット曲を自分たちで再現する「ゼミプロモーションビデオ」という課題制作をしましたが、班の中でも一人ひとりの意見があるのでその調整に苦労しました。
■卒業生
私の在籍した時代から課題の内容は変わっていません。ドラマのような映像やミュージックビデオなど、同じような課題を制作しました。24 名ほどのメンバーで４つのチームがあって、課題毎にチームをシャッフルしてお互いの作品を競い合っていました。

●就職活動、仕事について

現在のお仕事の内容は？

■卒業生



2002 年に入社してから５年間は大阪で、2007 年からは東京に戻って制作部に所属しています。大阪での５年間は新人としての修業期間でしたが、先輩社員の方々と交流できた貴重な時期でした。
関西テレビは番組制作に意欲的で、現在はプロデューサーという立場でバラエティーとドラマの制作に関わっています。どちらかというとここ５年間は、ドラマがメインになっています。東京の放送時間で言うと、火曜日の夜 22 時は関西テレビが制作しているドラマ枠で、プロデューサーの役割としては、枠以外は何も決まっていない段階から「何を作ろうか」と企画していきます。まずは企画を立てるのか、主演のキャストを決めるのか、いろいろなアプローチはありますがコツコツとゼロを１にしていく仕事です。
会社には制作部もあれば経理、営業、報道といった部署もあり、どの部署に配属されるかは分かりません。私は制作に行きたいと連日人事部に訴えていました（笑）。晴れて制作部に配属になり、入社以来 15 年近くにわたり一貫して制作部署にいるので恵まれていると感じています。
■先生
河西さんは、最初はディレクター志望でしたよね。
■卒業生
そうです。東京に異動したタイミングから、プロデューサーになりました。

職場環境はいかがですか？

■卒業生

関西方面の出身者が多い中で、和気あいあいと仕事をしています。関西で人気のあるタレントの方と親交を深めて、いろいろと教えていただきました。

最近では中途入社の方もいます。現在は 20 名ほど新入社員を採用していると思いますが、私の入社した年度は就職氷河期と言われた時代で、採用人数は 8 名でした。

就職活動はどのように進めましたか？

■卒業生



回数をこなすうちにだんだんと慣れていきました。私はアナウンサー試験を受けましたが、そのあとに一般試験も受けたので独特の雰囲気に慣れていた感じはありました。最終的には制作をしたい気持ちがあったため、アナウンサーはあきらめました。今はその選択で良かったと思っています。

この会社に就職したのは、ドラマ制作に熱心だったことがあります。当時のテレビ業界では、関西の局としてはゴールデン・プライム帯で関西テレビ 1 社しかドラマ制作はしていませんでした。

■先生

1 年上の先輩でも、関西テレビに就職した学生がいますね。

■卒業生

最終面接の直前くらいに、電話で相談したことがあります。

関西テレビの人事部の方には、本当に丁寧に面接していただきました。

仕事のやりがいはどこにありますか？

■卒業生

ドラマは、放送回数が限られており、クランクアップしたときは達成感があります。ゼミと似ていますが、社会人の場合はビジネスなので、結果を残さなければなりません。結果が良ければ気分も良いですね。番組を制作した美術や制作スタッフとは絆が深まり、一緒に 1 つのものを作っているという充実感があります。

稲増ゼミの OB・OG は、ゼミ学生にとって大きな力になっていますね。

■先生

最初にゼミを持った頃は卒業生がいなかったため、就職活動もどのようにサポートするべきか分かりませんでした。しかし、10 年ほど経過した頃から OB・OG の力が発揮されるようになりました。情報もそうですが、マスコミ関係に強いという伝統ができていると、「どう頑張れば、どういう結果につながるか」ということが見えてきます。実際に憧れの職業に就いて働いている先輩がいることは励みになります。

OB・OG との交流については、3 年の冬にゼミ生をすべて集めて、各マスコミ OB・OG との決起集会を行い、学生は面接指導や自己アピールシートの書き方などを見てもらっています。OB・OG 訪問でも、ゼミの先輩であれば訪ねて行きやすいです。長年培ったつながりが今、活きていますね。

● 5 年後に向けて

将来の夢を教えてください。

■先生

30 期で 800 名の卒業生が活躍しているので、このネットワークをさらに有効に活用できるような仕組みを作りたいと考えています。

私自身の研究としては、アイドル学会を作りたいですね。文部科学省が認める学術団体になるためには 100 名必要です。現在、50 名ほど集まったところです。また、若手でアイドル研究をしている人がどんどん増えてきているので、そのネットワークを強化したいとも思っています。

■大学生

私は、マスコミ関係に就職を希望しています。仕事で東京オリンピックに関われたら良いなと思っています。

■卒業生

就職活動の際にもずっと言い続けてきたのですが、自分が作ったテレビ番組などで、何かブームを起こしたいです。世の中が後から追いついてくる、時代を先取りした作品をつくりたいです。

■先生

そういう意味では、以前、河西さんが関わったドラマで無名の役者さんをたくさん起用し、今、その役者さんたちがいずれも大活躍しています。

■卒業生

そうですね。キャスティングが当たりました。

先生の研究の社会的な意義を教えてください。

■先生

私たちの身近にある、物の見方を提示することです。面白い、格好良いといった視点ではなく、社会的な背景や文脈から、それをテキストとして今の時代を読むために利用するということです。それはどんなジャンルでも適応しますが、その 1 つとして、私の場合はアイドルがありました。アイドルを通して時代の動き、人々が何を望んでいるかを知るということです。

●高校生へのアドバイス

高校時代にやっておけばよかったことはありますか？

■大学生

私は以前からマスコミ関係を希望していたわけではありません。父がマスコミ関係への就職を期待していて、幼い頃からそれを言われてきたため、漠然と将来像のひとつとして描いていました。先日、小学校 3 年生の時のタイムカプセルを開けてみましたが、21 歳の自分への手紙に「希望の仕事には就けましたか」と書いてありました。父の影響もあってメディア社会学科に入り、稲増先生に出会ったことで自分がこれまでやってきたことに満足しています。

高校生にアドバイスをするとすれば、大学に入る前に目標を決めた方がよいと思います。なんとなく大学に入ってしまうと、意味のない大学生活になってしまうと思います。自分の目標を達成するための 4 年間だと思えば、何事も頑張ることができると思います。

■卒業生

私は、留学です。先週はドイツに行ってサッカーを観てきました。やはり、海外に行けば語学力が磨かれるだけではなく、見聞も広がります。良い経験がたくさんできると思います。

また、先ほど三谷さんは入学前に目標を決めた方が良いと言われましたが、私は逆で何もなくても

構わないと思います。もちろん目標や夢があるに越したことはないですが、将来の目標のヒントは大学の中にもたくさんあると思いますし、先生や学生をはじめたくさんの人と出会うことで見えてくることもあります。

■先生

これから、どのような時代になるか分かりません。親の勧めを優先したり、安定した仕事に就くことだけを考えるのではなく、自分で納得し、好きなことを追究できる生き方が良いのではないでしょうか。

私自身も大学受験の時には大学紛争の影響を受けましたし、想像もしていなかった経験をしました。満員電車に乗って会社に行く毎日が嫌だったので、大学教授という職に就いています（笑）。



最後に、社会学部を目指す高校生にメッセージをお願いします。

■先生

学びの対象が幅広く、やりたいことを決めるのが難しそうに見えるかも知れませんが、大学に入ってから自分の進む道を見つけて深めていくことができる学部です。自分の将来が決まっていない人は、志がある学生と教授がいますので、ぜひ社会学部への入学を考えてみてください。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

稲増龍夫先生

法政大学 社会学部 教授

東京教育大学附属駒場（現：筑波大学附属駒場）高等学校出身。東京大学文学部社会学科卒業、東京大学大学院社会心理学博士課程単位取得中退。法政大学社会学部専任講師、助教授を経て現職。



■卒業生

河西秀幸さん

関西テレビ放送株式会社 東京コンテンツセンター 制作部（2015 年度取材当時）

東京都立国立高等学校出身。法政大学社会学部社会学科卒業。現在は東京制作部のプロデューサーとして、ドラマやバラエティー番組の制作にキャスティングや企画段階から関わっている。



■大学生

三谷紬さん

法政大学社会学部メディア社会学科 3 年生（2015 年度取材当時）

私立共立女子高等学校出身。周囲の影響もあり幼い頃からマスコミ業界を志望し、法政大学稲増ゼミを目指す。現在は就職活動を控え、稲増ゼミでの課題に仲間たちと取り組む毎日を送る。